令和３年度　　学　校　評　価　自　己　評　価　表　　（　中間　・　最終　）

東広島市立西条小学校

学校教育目標	人間性豊かで　創造性に富み　たくましく生きる子どもを育成する	『 光る 』 ～ みんなが光る！　みんなで光る！　～ 【めざす学校像】『独創教育』の理念を基に，工夫・追求・徹底・協働によって新たな価値を創造する学校 【めざす児童像】何事も自ら進んで「正しく　強く　優しく　永く」やろうとする子ども 【めざす教師像】笑顔で寄り添い，子どもの心に共感する教職員

	評価計画					自己評価					学校関係者評価				改善方策
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	10月 達成値	2月 達成値	達成度	評価	結果と課題の分析（○成果▲課題）	評価 適正	評価 不適正	評価 分からない	コメント	
主体的に学ぶ	やる気に満ち，自ら進んで学ぶことで，学ぶ楽しさを味わい，資質・能力を高めていく児童の姿	今求められる「独創力」を明らかにし，それを引き出し発揮させる学びの在り方を追求し，資質・能力を高める	・「独創力」やそれを構成する資質・能力を育成する手立てを考え，授業改善及び授業研究を行う。 ・「やりがい　自信　仲間のサポート」を実感できる働き方改革を推進し，教育の質を高める。	・課題解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいる。 ・ＣＲＴの達成度（活用） ・正答率40%未満児童の解消	児童評価 90% 低75% 中70% 高70% 40%未満の割合を３%未満にする	91% － －	91% 11項目/16項目 2.5%	100% 68% 100%	A B A	○児童は，日々の学習において，学習課題を意識し，その課題の解決のために主体的に取り組むことができている。また，学力調査の結果は，目標値には届かなかったものの，各学年全国平均より15～22ポイント高く，児童の学力を高めることができたと考える。共創思考を働かせる指導の工夫により，日常の授業が改善され，結果につながった。 ▲どの学年にも共通して，国語科は漢字の読み書き，算数科は立式，理科は事象の説明に課題がある。 ○正答率40%未満児童の解消については，目標値を達成することができた。授業やスキルタイムなどでの個別指導の成果だと考える。	○ ○ ○			・学力調査結果を分析する際に，全国平均ではなく，昨年度までの西条小学校と比較するべきである。目標設定を再検討し，今後の西条小学校の目指す姿を明確にいしていく必要がある。 ・正答率40%未満の児童は，どのような思いで過ごしているのかを把握する必要があるとともに，その児童に対する具体的な手立てを講じることで，学力を保障する必要がある。	・今年度，授業改善の視点として取り組んでいる「共創思考を働かせる指導の工夫」のさらなる充実を図るとともに，児童の主体性を大事にした授業づくりも引き続き継続していく。 ・スキルタイムや家庭学習の在り方を再検討し，正答率40%未満の児童だけでなく，すべての児童の学力の向上に向けた取組にしていく。 ・昨年度の同学年との比較や。同一集団の経年比較等の視点を取り入れながら，学力の目標値を再設定する。
		本が好きになり，進んで読書を行う意欲や態度を育てる	・読書による感動を味わったり感動したことを紹介したりする活動を行う。 ・委員会活動を活性化させ，目標設定やイベントを工夫して実行する。	・友達に薦めたい本がある ・本を読むのが好き	児童評価 95% 児童評価 85%	81% 88%	96% 91%	100% 105%	A A	○児童が読書に興味をもち，楽しんで読書活動を行うことができるように，「感動」をキーワードとした活動を行った。各学級で児童相互でおすすめの本を紹介し合ったり，他学年からの読み聞かせを聞いたりすることで，読書の興味の幅が広がったと考えられる。また，制限のある中で，図書委員会が様々なイベントを開き，児童の読書意欲を喚起した。これらの取組により，読書に親しむ児童がさらに増えた。	○ ○			・今年度の読書推進のテーマは「感動」ということであったが，低学年の児童に「感動」をどのように捉えさせて読書を推進していくのかを考えることが大切。 ・児童の読み聞かせの取組は，よい取組であると感じた。選択した本の内容も素晴らしかった。	・引き続き「感動」をテーマとした取り組みを行う。「感動」のイメージを広げ，様々なジャンルの本を紹介し合うことで，児童の多様な分野への興味を喚起する。 ・学校で高まった読書意欲を，家庭での読書につなげる取組を行う。また，保護者への働きかけを工夫する。
ふるさとを愛する	西条小・西条町に誇りと愛着をもつ児童の姿	生活科・総合的な学習の時間の系統的な学びを推進する	・開発単元における体験活動の工夫・充実を図り，学校や地域の人・伝統・文化の素晴らしさを実感させる。	・学校大好き ・西条への愛着	肯定的回答率 95% 肯定的回答率 95%	96% 96%	96% 98%	100% 103%	A A	○各学年の生活科・総合的な学習の時間では，西条小学校や西条の町の人や社会，自然等と，自分とのつながりに気付いたり，積極的に働きかけたりする学習を行ってきた。新型コロナウイルス感染症のため，活動内容が制限されることも多かったが，その中で児童が知恵を絞り，自分たちにできることを実行した。それらが，学校や地域への愛着を高めることにつながった。	○ ○			・6年間かけて，地域のことを学んでいくという単元構成の成果が，ふるさとが大好きと思える児童の育成につながっている。6年生で行うオペラ「白壁の街」も，6年間の郷土の学習の集大成であることが分かった。このことを，保護者にさらに周知していく必要がある。	・学習の振り返りを充実することで，前学年とのつながりを意識させ，６年間の系統を児童自身も感じながら学習に取り組むことができるようにする。 ・実施時期や形態，方法などを工夫し，児童が地域の人・伝統・文化と深く関わる体験活動をさらに充実させていく。
教育課程を社会に開く	学校の教育目標や経営理念，目指す子供像を教職員・児童・家庭・地域で共有し，協働して教育を推進する姿	校訓に込められた価値と児童が光る姿のイメージ（目指す姿）を共有する	・自分の得意，良さ，夢中になれることや自身の成長を実感させる。 ・自分の学びたいことに浸る「鐘なし日」を実施する。 ・仲間と共に学び，生活することのすばらしさを実感させる。	・「校訓の価値」「光る」のイメージに対する達成度 ・友達の光る姿を言える児童	児童評価 95% 児童・保護者による各評価の差10%以内 児童評価 90%	92% － 90%	95% 保護者評価 91% 差 4% 94%	100% 100% 104%	A A A	○3年生以上で，「鐘なし日」を実施した。また，年2回，全学級で「友達のよいところ見つけ」を行った。児童は自分の得意，良さを発揮して活動に夢中になったり，自分の良さや成長を実感したりすることができ，それが児童の「校訓の価値」「光る」のイメージに対する達成度を向上させたと考える。 ○年度初めには，全教職員で「光る」児童の姿のイメージを共有し，各学級でも「光る」イメージを話し合った。学期や行事の前後には，学級で「光るためにどのように取り組むのか」「自分たちは光ったのか」を話し合うようにした。これらの取組により，教職員と児童で目指す姿を共有することができた。また，話合いで出された児童の考えや取組の中で見られる児童の「光る姿」をHP・学校だより・学年だよりで紹介することにより，保護者ともイメージを共有することができた。	○ ○ ○			・学校経営目標である「光る」を児童・教職員が共有して，様々な取り組みを行っていることが分かった。今後は，保護者も年間を通してこの目標を共有していくことで，家庭と学校が同じベクトルで児童の育成に関わることができる。	・学校行事やPTA講演会，通信やホームページ等を活用して，学校経営目標を保護者と共有する機会を設けることで，学校と家庭が連携して児童の育成に向かうことができるようにする。

A･･･100≦（目標達成）　B･･･80≦（ほぼ達成）　C･･･60≦（もう少し）　D･･･60＞（できていない）　達成度＝達成値／目標値